

令和2年度 第1回 富谷市協働のまちづくり推進審議会 会議録

日 時：令和2年7月3日（金） 15時00分～16時50分

場 所：富谷市役所3階 305会議室

参加者：富谷市協働のまちづくり推進審議会 出席委員9名 欠席委員1名

：富谷市 1名

：事務局 5名

1 開会（司会：市民協働課 課長補佐）

2 市長挨拶（若生市長）

皆さん、こんにちは。本日は、大変お忙しいところ、第1回富谷市協働のまちづくり推進審議会ということで、このように皆様方にご出席をいただきましたことを心より御礼を申し上げます。そして、只今委嘱状をお渡しさせていただきましたところでございますが、改めてご就任をいただきましたことを心より感謝を申し上げます。本当にありがとうございます。また、日頃より皆様方にはそれぞれのお立場で市政全般様々な形でご支援、ご指導、ご協力を賜っておりますことも、併せて心より御礼を申し上げさせていただきます。

富谷市におきましては、ご承知のとおり平成28年10月10日、町から市へということで、新しい歴史を歩み始めたところでございます。その市政施行に併せて、市になることが目的ではなくて、大切なのはどんな市を作っていくかということで、総合計画を策定させていただきました。その総合計画の大きな指針を話し合う時に、富谷の力、富谷の可能性、富谷の魅力は何だろうといった時に、元々5千人いなかった村から、今は5万人を超しているまちになって、多くの人達がこの地に色々な形でご縁を持って、お一人お一人が色々なキャリアを持っている、様々な方々が富谷に住んでいただいている、そういう意味では、富谷の魅力、富谷の可能性は人だよねというところから総合計画をスタートしまして、その大きな柱の一つとして、第4章に市民の思いを協働でつくるまちを掲げさせていただきました。今まさに、市民協働という言葉がよく叫ばれているわけですが、日常の中で実際に実践し、今日委員としてご参加いただいている増田さんが取り組んでいる、成田の地域と学校をつなぐ、ささえ隊の防災の取組であったり、屋上で蜜蜂のお世話をしていただいている、村上さんに取り組んでいただいている富谷の新しい特産のはちみつプロジェクトであったり、様々な取組がまさに市民協働として既にそれぞれ行われ、また色々な形で町内会長の皆さん始めPTAの皆さん、シルバー人材センターさん、社協さん、行政と市民の皆さんまたは各種団体の皆さんが協働して様々な取組を行っているところでございます。そういった中でそれをもっと具体的に進めていくためにどうすればいいだろうかということで、昨年度市民協働のまちづくり推進懇話会を行いまして、佐々木先生にはその時にも座長を務めていただいて、委員の中にも懇話会の時からご参加いただいていた委員の皆様もいらっしゃるわけですが、一年間かけて素案作りにも取り組んできたところでございます。今回いよいよ、推進審議会ということで、正式な審議会としてスタートをすることになりました。本来であれば新年度当初スタートしてすぐ開催したかったですけれども、今年は新型コロナウイルス感染症の関係で、なかなかこういった会議も開催できない状況が続いております、本日第1回目ということになったところでござ

います。しかし、皆様方にここから色々なご意見をいただきながら、富谷市の市民協働を参加しやすいものとし、そして市民の皆さんが共に支え合っている富谷のまちづくりというものを作っていきたい、そのいわゆる指針、やり方なり、推進の方法を今回皆さんにご審議いただければと思っておりますので、どうぞよろしくお願いを申し上げます。簡単ではございますが、挨拶とさせていただきます。どうぞよろしくお願い致します。

3 委員紹介・事務局紹介

名簿順に総務部長より各委員を紹介。その後、市の出席者の紹介。

4 会長及び職務代理者の選任

互選により、会長に 佐々木委員が就く。

会長の指名により、職務代理者に 平岡委員が就く。

5 会長挨拶

宮城大学の佐々木と申します。どうぞよろしくお願いいたします。先ほど市長からもお話がありましたとおり、審議会の前段に懇話会というものがございます、一年間しっかりと議論はしてきたのかなと思います。議論の中で大きな変更がありまして、私なりにそれを翻訳いたしますと、ルールというのも一つなのですが、富谷市の活動されている皆さんが守るルールを作るというよりは、富谷市で活動されている皆さんを守るルールを作っていこうということに、流れがシフトしたのではないかなと思っております。そういう意味ではたたき台というものもありましたけれども、本当のたたき台になってしまいまして、この間ご尽力、皆様含めましてしっかり議論をしまして、そしてまた作ったものを新たなメンバーに加わっていただきまして、さらにそれを現実的に見てどうかということをお今日は諮っていく場になるのかなと思っております。そういった意味では進行ですね、今回この状況ですので、限られた時間にしないといけないということもありますので、皆様のご協力をお願いできればと思います。それではどうぞよろしくお願いいたします。

6 諮問

若生市長から審議会へ諮問。

※市長 退席

※ここから、会長が議長となり議事が進行された。

7 審議事項

(1) まちづくりの基本となるルールの策定について

(佐々木会長)

それでは、進めさせていただきたいと思っております。議事に入る前に委員の皆様にお諮りいたします。会議の傍聴及び富谷市情報公開条例に基づく開示請求があった場合の本審議会と会議の資料及び会議録の公開につきまして、ご了解をいただけますでしょうか。

※「異議なし」の声あり

それでは、委員の皆様からご了解をいただきましたので、会議の傍聴及び会議録等の開示請求があった場合は、公開することといたします。ただし、個人に関する情報等が含まれる場合は、富谷市情報公開条例第7条に基づき、部分開示とすることを申し添えます。

それでは、本日の傍聴人について、事務局から報告をお願いします。

(市民協働課長)

本日の傍聴の申し込みは1名でございます。

(佐々木会長)

只今、傍聴人が1名お見えになっているとのことですが、傍聴を許可してよろしいでしょうか。

※「異議なし」の声あり

それでは、傍聴人の入室を認めたいと思います。

※傍聴人 入室

それでは議事に入っていきたいと思います。まずは事前にお手元に届いているとは思いますが、改めましてまちづくりの基本となるルールの策定についてを議題といたします。事務局からルール策定の説明をお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

(事務局)

それでは、右上に資料1と書かれているA4判カラー刷りの資料に沿って説明をさせていただきます。事前に資料をお渡ししておりましたので、ポイントを絞ってご説明させていただきます。

1 ページをお開きください。本市の総合計画では、先ほど市長からも申し上げました通り、まちづくりの将来像、住みたくなるまち日本一を実現するための四つの基本方針の一つに市民の思いを協働でつくるまちが掲げられております。

2 ページをお開きください。本市では、市民の思いを協働でつくるまち、健全なまちづくりに向けてみんなが協働するまちづくりを基本的な考え方として進めております。協働のまちづくりを推進する背景につきましては、指針案で触れておりますので省略させていただきますが、一番下の項目、男女、世代を問わず市民が様々な分野で活躍しているということが一つの大きな背景と捉えております。また、その下に青字で記載しておりますが、令和元年度における審議会等委員に占める女性の割合が50.3%で全国第2位となり、ほぼ男女が対等に参画している状況となっております。

3 ページをご覧ください。市の主な取組は記載の通りでございますが、5のまちづくりの基本となるルールづくりにつきましては、本審議会においてご審議いただき、今年度内に策定予定としております。市民協働のまちづくりについて、市では、

従来の行政と市民の協働としてのみ捉えるのではなく、多様な主体との協働による市政運営と住民主体の地域づくりを足し合わせたものと考えております。

4 ページをお開きください。ルール策定の方向性といたしましては、一番下の太字下線部分になりますが、協働を進めるために必要な考え方や方向性を示す指針の策定として位置づけ進めていくこととしております。

5 ページをご覧ください。指針の目的と役割については、一番下の太字下線部分になりますが、様々な主体が、共にまちづくりに取り組むための具体的な考え方や方向性を示し、共通理解するためのものとして指針を位置づけるものでございます。

次に6 ページをお開きください。指針策定にあたりましては、記載されております三つの考え方を基本としております。詳しくは資料2の素案の中でうたっておりますので、後ほどご参照願います。

7 ページをご覧ください。指針の構成は記載の通りとなっておりますが、この後の資料3の指針案の説明の中で詳しくご説明させていただきます。

次に8 ページをお開きください。策定の推進体制は、表の通りでございますが、本審議会につきましては、市の諮問機関として設置しているものでございます。

9 ページをご覧ください。策定のスケジュールといたしましては、本日が諮問及び第1回審議会でございます。8月にとみやわくわくミーティングを3回開催し、市民の皆様のご意見を伺う予定でございます。審議会委員の皆様におかれましては、可能な範囲でご出席いただきまして、参加者の方々の意見のとりまとめ及び指針中間案への反映についてご検討をお願いいたします。続きまして、10月の第2回審議会においては、指針中間案についてのご審議、11月に指針中間案について市議会へ報告を行い、同月にパブリックコメントを実施する予定でございます。次に、令和3年1月に第3回審議会において、最終の指針案についてのご審議及び答申、2月に最終案について市議会へ報告を行い、3月に指針として策定することとしております。

10 ページ以降につきましては、参考資料となっておりますので、後ほどご覧いただければと思います。以上でございます。

(市民協働課長)

それでは続きまして、資料3の富谷市協働のまちづくり推進指針案につきまして、私からご説明をさせていただきます。

まずこちらの指針案につきましては、基本的には昨年度策定いたしました素案に基づきまして、事務局で作成をさせていただきました。あくまで本日も協議いただく上でのたたき台ということになりますので、どうか皆様の忌憚のないご意見を頂戴できればと思いますのでよろしくお願いいたします。

まず始めに、表紙に記載しております指針の名称でございますが、こちらは仮の名称として入れております。富谷市協働のまちづくり推進指針ということで入れております。ただ、これだけだと非常に固いイメージとなってしまいますので、サブタイトルといたしまして、ゆるく、たのしく、つながるとみやの協働と入れております。こちらにつきましては、これまで懇話会を始め、市民の皆様からいただきましたご意見を基に、キャッチフレーズのようなイメージで考えたものでございます。また、表紙には、国連採択の指標であります、SDGsのロゴマークを入れております。こちらは素案の中には盛り込んでおりませんでしたでしたが、市のこれからの取組といたしまして、SDGsの推進ということを改めて総合計画後期計画にも打

ち出される予定となっておりますので、指針におきましても、SDGsとの関連性も盛り込んだところがございます。

それでは、それぞれの項目につきまして、ご説明をさせていただきますが、時間の都合上、素案に基づかない新たにとりまとめた部分のみ、簡単にご説明をさせていただきます。

始めに、3ページをお願いいたします。(3)の改善が必要なことにつきましては、主に懇話会でご意見をいただきました内容や、これまでのセミナーのアンケートでいただいたご意見を大きく四つの項目に整理しております。内容につきまして、改めてご協議をいただければと思います。

次に5ページをお願いいたします。協働についての基本的な考え方につきまして、協働の一般的な定義を、できるだけ分かりやすい言葉に置き換えて整理しております。また、下の枠の中の写真の所なのですけれども、こちらを空欄にしておりますが、こちらは、今後、わくわくミーティングで市民の皆さんのご意見もいただきながら、皆さんが知っている身近な協働の取組事例を写真で紹介していただくかと考え、あえて空欄にしております。

6ページ、7ページをお願いします。こちらにつきましては、協働をより分かりやすくするために、佐々木先生のアドバイスもいただきながら、図式化したものでございます。また、7ページには様々な主体の特性につきまして、改めて整理し盛り込んでおります。

8ページ、9ページをお願いいたします。こちらの協働のかたちにつきましては、昨年度の懇話会のご意見を踏まえまして、本市の協働の事例を取り上げております。取組事例はあくまでも一例としてあげさせていただいております。例えば、この中で西成田コミュニティ推進協議会の大運動会ということで、従来からの取組の例としてあげておりますが、新しく、富谷らしい取組といたしましては、例えばシルバー人材センターさんが今取組んでいらっしゃる富谷茶復活プロジェクトなどもあげられるのではないかなと思っております。こちらにつきましてもご協議をいただければと思います。

10ページをお願いいたします。こちらの協働の進め方につきましては、あえて空欄を作っております。こちらに関しましては、協働の実践につながる部分でございますので、今後、審議会の皆様とわくわくミーティングの参加者の皆さんのご意見でもって、ポイントとなる点を整理していただければと考えております。

次のページ、11ページの協働を進めるうえで配慮することにつきましては、これまでのご意見を基に整理しておりますので、改めてご協議をいただければと思います。

次に13ページをお願いいたします。4の協働の推進に向けてにつきましては、これまでの皆さんのご意見や、議会のご提言を、とりまとめて整理したものでございます。

次のページの14ページ、推進に向けた取組についても同様でございます。こちらでも改めてご協議をいただければと思います。

なお、15ページ以降の参考資料につきましては、今後内容を整理して盛り込んでまいりたいと考えております。

それから、最後に本日追加資料でお配りしております3ページ部分につきましては、担当課と協議して整理し直しましたので、本日はこちらの内容でご覧いただければと思います。以上でございます。

(佐々木会長)

説明ありがとうございました。それではこのご時勢でございますので、5分間休憩を挟みまして換気をさせていただきたいと思います。それでは5分後に再開いたします。よろしく願いいたします。

※5分間の休憩

(佐々木会長)

それでは再開させていただきます。休憩前の事務局の説明を受けまして、少し論点を整理させていただきたいと思います。おおよそ時間のほうは、16時30分までを議論の時間としていますので、早まる分には構いませんので、コロナの関係がありまして、なるべく時間内にとどめていきたいと思っております。限られた時間内できちんと議論を進めていきたいと思っております。皆さん一人一言は話していただきますので、そのつもりでお願いできればと思います。

今回やはりポイントとなってくるのは、富谷市協働のまちづくり推進指針の案が出ておりますが、こちらがポイントになってくると思います。その前段の条件というものも、説明いただきましたけれども、私のほうからこちらを少しポイントを絞って、皆様から特にご意見をいただきたいところ、前段の部分を含めて、ご意見何でもいただいても構わないのですけれども、今日ポイントを絞りたい部分を最初にお話をしていきたいと思っております。

まず表紙の部分ですね。私が考えたわけではないのですが、みんなでやってみるピヨとか、なるべく親しみやすくということで作っていただいたと思います。タイトルも案です。またサブタイトルというものもついていますが、こちらも案ということになっております。目次を開いていただきまして、特に議論してほしいというのは先ほど高橋課長さんからも3ページの部分、改善が必要なこととありましたが、その前に、まず指針の目的ということで、指針のねらい、趣旨ということが書かれているということになるわけです。

2番目は富谷がどういう協働のまちづくりを目指すかということで、改めて協働ということをして今日ここで私が講義をするということではないのですけれども、私も富谷のほうで何度か協働の話をしていただいております。やはり10年前と今の協働では変わってきていると、東日本大震災後に全国的に協働というものの概念が変わってきておまして、大きく何が変わったかと言うと、これまでは、行政と住民、例えばNPO組織とか、その二つがどう協働するかということだったのですが、それはある程度うまくいってきていると。一方で東日本大震災のような事態になるとですね、この二つだけではどうしようもなく、色々な方々が協働して災害に動いてきたということがあります。そういう現状を踏まえて、この以下を進めていったということを少し補足させていただきたいと思っております。そして、市の現状がありまして、その後市民活動の現状ということで、改善が必要なこと、括弧して課題と書いてあります。ですので、ここの部分はタイトルを含めまして、まだ仮で入れているわけですが、懇話会などで出た議論を踏まえて、新しく書き起こしている部分であります。3ページの(3)は特に、皆様にもお話をいただきたい部分になります。

そして5ページが協働とはとあります。定義をお話するということは先ほど少しさせていただきましたが、私が先ほど言ったようなことを書き込んでもらったと思

います。

そして6ページですね、この部分がこれまで富谷の色々な計画の中には無かったもので、私も富谷市のほうに足を運びまして、職員の皆様と少し練った部分になります。たぶんこれを見ても何の事かというところがあると思いますので、少しこの図についてご説明をさせていただきたいと思いますが、まず、色々な主体があるということで、ここは丸が6個、カラフルな丸がありますけれども、市民、地域コミュニティ団体、市民活動団体、公益法人、事業者、市とありますが、この他にも挙げていけばきりが無いのだと思います。ただ、これまでのような二者ではなくて、多様な主体が、これからは当事者なのだということ、そして地域の課題や行政の課題というものがあります。それが、皆さんが解決しないといけないと思った人達が下の図になりますね。どのような形、組み合わせになるか分からないのですが、それを解決したいと、課題だと認識した人達が連携をしまして、一番下の何らかの課題解決になるということで、富谷インパクトというキャッチも付けさせていただいたということになります。インパクトと言うと、皆さん衝撃というイメージがすごく強いと思うのですが、もちろんそういう意味もありますけれども、英語の和訳とすれば、差という意味なのですね、インパクトというのは。なので、例えばやらなかった場合とやった場合とか、一人でやるのはなかなか難しい課題というのは多くありますので、一人でやった時と三者がくっついて仲良くやった場合ではどういふ好影響が出るか、そういう意味でこの辺を作り込んだということになります。この説明を、少しどこかに書いたほうがいいのかと思っておりますが、とりあえず今日は懇話会のたたき台をさらにバージョンアップしたたたき台になっておりますので、これを皆様方から率直な意見をいただいて、バージョンアップしていくという作業がこれからの作業になります。

続きまして、7ページがありまして、8ページ、9ページですね。これは事例という形になりますが、この辺も先ほど高橋課長さんのほうからご意見いただきたい部分だということで特にあったと思います。やはり私も、この辺の自治体、あるいはたまに県外からも呼ばれて話をしますけれども、協働と言った時に、分かりにくいというのが多くありまして、いくら説明してもなかなか難しいというのが現実なのだと思います。場合によっては小学生、中学生、例えば大学生に説明しても分からないのです。そのような中で、私自身も仙台市や利府町の事例集を手掛けておりますけれども、やはり具体的にこういうものが協働だよというのがあると、大学生でもああなるほどねということになるのですが、少しイメージがつくように、簡単な事例を載せたらいいのではないかなと事務局と私で考えているということになります。

そして10ページ、11ページとありまして、特にこの協働の進め方というのは、この通りきれいにはならないというのは実践者の皆様は重々ご承知の上かと思うのですが、ある程度何となくイメージが掴めたらということでこのように書いていますが、ここは真っ白になっていますので、皆様方に実際にはこうだよというお話をいただく良い機会になるのではないかなと思います。11ページの協働を進めるうえで配慮すること、ここも議論していただきたいということで、話が出ていたと思います。

12ページのオレンジと水色の図は、これまで出典として仙台市が発行した協働のまちづくりの手引きを改編したということで引用されています。仙台市発行の協働のまちづくりの手引きは、私が監修しておりますので、ここもさらに富谷でパー

ジョンアップしていただいたということになりますが、元ネタは、何年発行だったのか忘れましたが、平成の初め頃に山岡義典さんというトヨタ財団からその後大学教員になった方が書いた図になります。これは行政とNPOの協働あるいは行政と地域住民の協働という時は必ず用いられる図ですので、基本を押さえているということで、事務局のほうでここに置いておいて考えております。その後、協働を進めるにあたって、ここからが実は重要になっていくと思いますが、方針を立てる、そして取組ということで、この辺の部分は少しまだ色合い的にも白黒な感じで、これからさらに変えていける余地があるのかなと思っております。

まず、ポイントを絞っていききたいということもあるのですが、まずはこれだけは言うておきたいと、全体を通してどんなことでも結構です。もしご意見いただける委員の皆様がいらっしゃいましたらご発言いただけますでしょうか。事前に送られているとはいえ、そんなに熟読はしていないとは思いますが、基本的な、この辺が分からないとか、そういうことでも結構でございます。

(増田委員)

細かくは色々あるのですが、まず全体的に読んでとても読みやすい文章で、これ少し何か意味が分からない、なかなか頭に入ってこないなという文章が無かったのですごく練っていただいたなと感じました。少し気になったのが、表紙のゆるくたのしくのゆるくは良い意味ばかりでもないのかなと。ぱっと見た時に、ゆるくというのが最初にきた時にあまり良い印象を受けなかったというのがありました。資料1のほうにはゆるやかにという言葉があったので、ゆるやかにあまり悪い印象は無いものなので、ゆるやかにとかだとどうでしょうか。

(佐々木会長)

ありがとうございます。そういう意味ではこれもまだ仮ですので、これを入れるも入れないも含めましてご意見いただいておりますね、確かにゆるくと言われると、怠けているとかだらけているみたいなイメージをふと印象で持たれたのかなとお話を聞いていて思ったので、そういう意味ではここから皆さんの意見をいただきながら、改善していきたいと私自身も思います。

このような形でどのような事でも結構ですので。全体的に読みやすくなったという意味は、増田委員は懇話会の時からご出席されていまして、あの頃から見ますとがらりと変わりましたでしょう。

(北野澤委員)

北野澤と申します。今ほど増田委員のほうからキャッチフレーズの話がありましたけれども、例えばですけれどもこういうのを一般公募して、より市民の方々に協働という言葉に馴染んでいただくというのもありなのかなと思います。会社で色々やっていると、色々な人たちから色々な考えを募集します。それをご存知だと思いますがシーズと言って、種を集めて、それを蒔いて、育てて、収穫するという風な、その種も、実のなるものからならないものまで色々あるのですが、それを選別していただいて、ただ大きくなったら実はすごくおいしい果実ができましたというのがあるのですが、そういうケースも含めてですね、私も実は、公募があって手を挙げて、挙げてはいたのですが、果たして協働とは何なのだろうという、そこから調べました。それぞれの市町村の協働のまちづくりというものを

こんな風にやっているのだと。増田委員のお話にあったように、すごく分かりやすい文章で良いのかなという部分はあるのですが、将来の富谷を担う子どもたちにも分かるかと言うと、これはまた別問題の部分で、色々なセグメントと言いますか、色々な年代にも分かるような資料もこれから作っていかれてもいいのかなと思いました。

(佐々木会長)

貴重な意見ありがとうございます。まったくその通りで、今おっしゃっていただいたのは、今すぐ子どもたちに理解させるのは無理なところもあるのですが、やはり自分事としてこの計画というものを作っておく必要があるということだと思います。具体的にはネーミングの公募ということもありましたので、プロセスは先ほどご説明がありましたけれど、これからわくわくミーティングとか色々な機会がありますので、その時に色々な言葉をいただきまして、例えばこの委員会で紡ぎ合わせるとか、ゼロから考えると言うと結構大変なのですよ、ご存知だと思います。なので、何案か出しておいて、最終的にここの皆さんで選ぶとか、そういうプロセスをとっていくといいのかなと思います。ただ、その言葉は途中で子どもたち含めた参加者が出した言葉を紡ぎ合わせることが今のご指摘いただいたことで私が浮かんだアイデアでございます。実際に応募されて、協働を調べていただいたということで、大変感謝しております。ほかに全体に関わることでご意見いただける委員の方はいらっしゃいますでしょうか。

そうしましたら役所のほうからピンポイントで意見が欲しいと言われているところを少し掘っていきたいと思いますが、3ページの改善が必要なことであるとか、5ページの写真についてとか、事例についてとか、その辺のところ、それぞれからコメントをいただきたいと思います。あとは11ページの配慮することの内容であるとか、この順番でせっかくなのでお願いしたいと思うのですが、最後に平岡委員にコメントをいただくことになっておりますので、佐藤(怜)委員からトップバッターでコメントをいただければと思います。せっかくなので名前と所属を簡単に、今日初めて顔を合わせる皆さんもいらっしゃいますのでよろしく願いいたします。

(佐藤(怜)委員)

社会福祉協議会でボランティアセンターを担当しております、佐藤と申します。今回から参加させていただいておりまして、どうぞよろしくお願いいたします。社会福祉協議会は、ご存知の方も多いかと思うのですが、地域福祉を推進している団体として、まさしく地域住民の方と協働と言うか、そういったところを中心にボランティアさんの力を借りながら、様々な事業を展開しているところでもあるのですが、ボランティアセンターも、資料1の10ページにもあるのですが、今登録者数877名というところで、一見数字だけ見るとすごく多くボランティアさんの担い手がいるのかななんて思うのですが、これが地域の中で様々なニーズに対応できているかと言うとそうではなくて、そこはまだ課題になるところですし、協働というところに果たして行き着いているのかと言うとまだそこまで行き着いていない部分もあります。

社協としての地域住民の方と一緒に連携をしてやっているものとしては様々な事業がありまして、例えば一人暮らし高齢者のお宅にお弁当を届ける配食サービス

も、ボランティアさんの力を借りながらこの事業のお手伝をいただいたりとか、あとは一人暮らしの高齢者の会食サロンを各公民館で行っているのですけれども、そちらの会食サロンでお料理を作ってくださいる調理ボランティア、そして運営の協力をいただいている運営ボランティアというところで、本当に事業一つ一つ取ってもボランティアさんと一緒に協働しながら、いつも進めさせていただいております。この資料を見て、私も分かりやすく、協働が少し分からない方にもすごく分かりやすい内容で、私自身もすごく理解しやすいなとは思いました。私が思ったところだと、13ページの協働の推進に向けてという所で、③のまちづくりを担う人材を育成というところでは、社協のほうでもボランティアの養成をしましたりだとか、あとは、要介護状態になる前の住民の方に対しての生活支援員さんと言うか、家事手伝いのボランティアさんを入れておまして、そちらの養成や、子育てサロンなどを担う子育てサポーターさんの養成、あとは地域サポーター養成講座というのは市と連携をとりまして、地域の中でサポートしてくださる方を養成したりというところもありますので、こういったところは色々情報を共有しながら、こういったところに盛り込めるのかなと思っております。

もう一個気になる点は、13ページの②の交流の推進というところなのですが、社協は地域にどんどん出て行くような業務なのですけれども、今コロナの中で、なかなか人と対面して会えないというところでは、もしかするとこの協働のあり方も、少しずつ新しい生活様式の中で考えないといけないのかなと、インターネットというところはここにありましたけれども、今後こういうところも考えなければいけないのかなと少し思ったところでした。以上になります。

(佐々木会長)

ありがとうございます。そういう意味では社協さんのほうに多くの事例があるような今お話でしたよね。例えばこの事例の所に状況をいただいたり、またコロナの状況ですね、一言で言うとニューノーマルに変わるというようなことで終わりにされていますけれど、何の事かという状態でもありますので、その辺この一連かかってきますので、必要なことがあれば追記していくというようなイメージですよ。ありがとうございます。続きましてお願いしたいと思います。

(日諸委員)

シルバー人材センターにおります日諸と申します。よろしく申し上げます。私も今回初めての参加でございまして、微力でもお力になればと思っておりますが、私がやっている仕事は子育てサロン、福祉のほうをやっております。あとは独自事業で古民家を改装してのギャラリーなどもやっております。ここのシルバーの中では自主、自立、共働、共助といいまして、共働の共は、共に働くなのです。この資料をいただいた時に、協働と見て、私は逆に馴染みがなくて、差を調べてみました。そして、きちんと資料がまとまってらっしゃるので内容が分かりやすく、とてもお時間がかかったのだろうなと思って、大変だったのだろうなと思って、拝見しておりました。シルバーのほうでも、13ページの①の地域コミュニティ活動を推進しますという所で、地域ボランティアで学童ボランティア、朝の通学の時、あと帰りの時の交差点でのボランティアなどしております。

あと5ページの協働の所なのですけれども、先ほど課長のご挨拶の中にも富谷茶というのを言っていたのですけれども、シルバーでは富谷茶復活プロジェクト

トというのをやっておりまして、今年も初摘みをしまして、新茶を作ったのですけれども、そういうのもシルバーが主体になりまして、市のご協力をいただきながら、あと今回はコロナで住民の方を巻き込んでと言うか、入れての活動はできなかったのですけれども、そういうものも市民と一緒に作るということをやっている事業の一つでございます。

私は子育てサロン、子どもに関わっている仕事をさせていただいていることもありまして、13ページの③のまちづくりを担う人材育成ということと、14ページの最後に郷土を愛する子どもの育成という活字にぱっと目が留まったのですけれども、やはりこの素晴らしい資料ももちろんですけど、子どもたちがこれだけ立派な推進指針があって、子どもたちもこういうことに少し興味を持ち、自分が育っているこの富谷がこのように素晴らしいまちなのだということを感じながら育ってほしくて、それで成長して、例えば、一回出てまた富谷に戻ってこられるようなまちであってほしいなと単純に願うなと思ってこの資料を読ませていただきました。以上です。

(佐々木会長)

ありがとうございます。そういう意味では最後のお話の中にもありましたけれども、子どもたちに感じてもらうということも重要になってきてまして、今大学の授業でもですね、一方的な授業をすると、駄目な時代になってきてまして、アクティブラーニングと言われるのですけれども、いかに参加させるかなのですよね。なので少しこういったプロセス、何か子どもたちが関わられるようなところ、それか例えば協働も指針を作って終わりではありませんので、これからやることに子どもたちが関わっていくような仕組みを作ると、それが子どもたちが自分事として、一端の活動では理解できないにしても、その後を含めて自分たちのまちが好きになって、ひいては戻ってきてほしいという、そういう思いを込めたいというのは非常に重要なお話なのかなと思います。それを一言で書くのは難しいのですけれども、今後どのプロセスにかかっていくのかということも記録として残しておきたいと思いました。あとは富谷茶の話もですね。市民が参加できない時に、例えば買うという行為も協働の一つでありだと思えるのです。買い支えとか、色々またそういう事例を多くお持ちですので、シルバー人材センターさんの事例もきちんと押さえていきたいと思っています。それではお願いいたします。

(大谷委員)

成田東小学校でPTAの会長をしております大谷と申します。どうぞよろしくお願ひします。私も初めてこちらに参加させていただくので、協働というところから勉強させていただくことにはなるのですけれども、私も実際、富谷で生まれて富谷で育って今富谷にまた住んでいるという感じなのですが、私も成人してから一度富谷を出ています。でもやはり富谷がとても好きで戻ってきたものなので、子どもたちにも同じように富谷を好きになってもらって、富谷に戻ってきてもらいたいと思っています。実際、小学校の子どもと一緒に生活をしているのですけれども、富谷はつなぐ取組さんという方たちに、小学校で体力テストのお手伝いをしていただいたり、行事に参加していただいたり、あとはシルバーさんにも、畑を作っていたり、そういうつながりがとてもあると思っています。子どもたちはそれを当たり前だと思って生活しているのですけれども、それ

は当たり前ではなくて、たくさんの人達に支えられて自分たちが育っているのだということを感じて、これから実際に自分たちが富谷市を担っていくという風に思ってもらえればいいなと今この資料を見て改めて感じました。色々な家庭とか色々な問題を抱えている子どもたちが多くなっていると思うのですけれども、その子たちも安心して助けを求めることができる地域の方たちがたくさんいるということを感じてもらえるような雰囲気と言うか、そういうまちになって、実際もうなっていると思うのですけれども、それを子どもたちに感じてもらいたいなとすごく思いました。以上です。

(佐々木会長)

ありがとうございます。そういう意味では協働の文字から調べてもらったということで、先ほど漢字も色々あるというお話もありましたけれども、この協働という字も、今広辞苑にも掲載されております。ただ、協働は色々なパターンがあるのですよね。この協働というのは、行政の施策に入ってくる協働のまちづくりとスタンダードになってきているということではあると思います。そういう意味では今おっしゃっていただいた子どもに関する部分なのですけれども、その辺は、我々もついつい抜け落ちがちな視点ですので、例えば小学校でもつなぐ取組とか、そういう事例があるということで、正直私もイメージが湧かないのでやはりいずれ事例とかを書き上げていって。あとやはり非常に重要だなと思ったのは子どもたちがそれを当たり前だと思う。ただ物を買うのと同じで消費者になってしまうということだと思うのですけれども、子どもたちにこれがどういう風になっているのだとか、時には子どもたちに参画をしてもらう仕掛けというのは、やはり重要なのかなと思ってお二方の話を聞いていて私自身思ったところです。ありがとうございます。新しくご参加いただきましたお三方からも私たちが知らない色々な事例ですね、たぶん皆さんは知っているのだと思いますけれども、私は知らないものが多くありまして、やはりその辺のところ、どういう主体が関わっているのかとか、私たちもしっかり押さえていきたいと思えますし、たぶんここで全部網羅することはできないと思うのですが、おいおい、そうした事例を事例集として可視化していきたいなと私個人としては思っております。それではお願いいたします。

(北野澤委員)

北野澤と申します。富谷市との関わりは色々ありまして、今大谷さんのお話にあったように私も10年前、富谷町PTA連合会の会長をちょうど震災の時でしたけれども、会長をさせていただきました。そこから色々なお役をお声掛けいただきまして、学校評議員とかですね。去年の11月からは保護司を任命いただきまして、そちらの活動もさせていただいてございました。あまり難しい話はできないのですけれども、協働のまちづくりというのは要は富谷市が、標題にありました100年間進化していくまちであるために、どうしたらいいかと、要は市だけの動きではなくて市民も一緒にやってみましょう、そのためにはどうしたらいいのでしょうかということだと思うのですね。ただ組織というのは、賞味期限ではないのですけれども、立ち上げるとうまくリクルートしていかないと消滅していくのですね。私も地元でソフトボールをやっているしまして、明石台一丁目、二丁目、三丁目、五丁目、あと成田というところの地域で、ソフトボールのチームを作ってやっていたのですけれども、増田さんがいるところの成田が、あんなに大きいまちなのに消滅してしま

ったのですよ。それはうまく新しい人達が入れなくて消滅していくと。ただ残ったチームも段々高齢化になっていって無くなりつつあると。ただそこは、平岡委員がいるところの二丁目は、そのソフトボールのメンバーが町内会の活動の中心となって活動しているというのもあって、そういう人達をうまく活用していって、賞味期限と言ったら悪いのですけれど、組織がうまくリクルートしていく、というようなことがあればいいのだろうと思っています。

私は間もなく62歳になるのですが、もう少ししたら敬老会に入ってもっと楽しいことをしようと思っていたのですが、去年残念ながら私の住んでいる所の敬老会が解散をして、自主活動の組織になってしまったのですね。何でやめるのだろうと思って。そこには、引っ張っていくリーダーの方がいらっしやらなかったというのと、後は皆が支えていこうという力が無かったのと、後は新しい人が入ってこなかった。それは何でかと言うと、とても楽しい組織だったから、そこに新しい人が入っていくことを許さないとか寄せ付けないというのがあって、そういうのもあります。NPO法人の活動ももしかしたらそうなのかもしれないですけども、自分が頑張っている時は良いのですけれども、その意図を汲んでいただけなくて続かないとなかなかそれを続けていくことは難しくなるのかなと。そのためにも、逆に市役所さんからの何て言うのですかね、何か作る時に最大摩擦係数と私言うのですけれども、立ち上げる時はすごく労力が必要なのですけれども、その労力の時に市のほうからのサポートがあってようやくよっこいしょと立ち上がる。途中で衰退していきそうな時にはご相談をしていただいて、少してこ入れをしてもらって活動をより活性化していくという風なことがあっての協働だと思います。そのために、もっともっと市民の方々に広報活動をしていくためにこのまちづくり推進指針というのが絵に描いた餅にならないように、この1、2年をかけて、出来上がる途中でも良いのですけれども、出来上がった時も含めて、いっぱい市民に対してPRしていくとか、アプローチしていくとか。先ほど言ったみたいに公募をすとか、小中高生にどんなまちにしたいとか、将来の富谷市の絵や作文募集とか、学生さんに論文を書いてもらうとか、そういうものも含めて、小さい子どもから大人とか年寄りまで全部ひっくるめて富谷を活性化していこうという気持ちになるような活動が、本来の目的なのだろうなと思って、それをすごく楽しみに、良い富谷になるようにしていければいいなと思っています。以上です。

(佐々木会長)

ありがとうございます。そういう意味では今のお話で非常に重要だなと思ったのは10ページの協働の進め方というところに関連してくるのかなと思いました。これはおっしゃっていただいたように多大な労力をかけて始めるという部分なので、すけれども、例えばその後の、行政のフォローアップも含めて、そういったその後のプロセスも少し入れていって、SDGsに絡めていくというお話もありましたので、持続可能な活動にするにはどうすればいいのかということですね。ただ先ほどNPOというワードがありましたけれど、やはりNPOとかですと、ミッションですので、ミッションが達成したら解散するということもありなのですよね。その辺も踏まえて地域住民活動とそれぞれの主体によって、期間というものもあると思いますので、その辺のところでも少しここはまったくまだまっさらな所ですので、改善していけるのではないかなと思いました。そしてまた先ほど一般公募の話もありましたけれど、その辺は、わくわくミーティングなどで即取り入れられますので。今の

話の中で特に重要だなと思ったのがこの10ページの所にそういうことを少し付け加えていくということをやったり改善していかないと、多くの団体の中で本当は解散したくないのだけれども、解散になってしまったとか、そういうことは多く聞きますし、学生サークルもそうです。ですのでその辺少し配慮していきたいなと思います。

それではここからの4名の委員の皆様は懇話会の時からの継続でいらっしゃる皆様でございますので、例えば具体的に、この辺の文章をこうしたほうがいいのではないかと含めて、ご指摘いただければありがたいなと思います。それでは増田さんからお願いしたいと思います。

(増田委員)

成田マルシェという団体の代表をしております増田です。どうぞよろしくお願いたします。先ほど副タイトルを募集するというのがすごくいいなと。募集しなかったとしてもわくわくミーティングと言うのですか、今度。そこに来た人達で単語を繋ぎ合わせていったらすごく親しみがあるなと思いました。いくつか内容であるのですけれども、住みたくなるまち日本一というのが刷り込まれてしまって何の疑問もなくそれを私も思っていたのですけれど、住みたくなるまちは、どちらかと言うとよそから見てあそこは良いよねというイメージもあると思うのです。でもこの市民協働は住み続けたくなるまちというのがすごくふさわしいなと思うのですね。それで1ページの例えば指針の(2)に住みたくなるまち日本一という言葉が入っていますけれども、さらに住み続けたくなるまちみたいに、ダメ押しのように入れると、市民協働はやはり住んでいる人達のものなので、良いかなと思ったのが一つです。

それから、可愛いのですけれど、ピヨという所、字体がすごく柔らかくて読みやすい字体なので、ここはきちんとした文章のほうがいいのかと個人的には感じました。

それから3ページの改善が必要なことの所、読んだ時にまず改善というのは、元は問題があるから良くしていくという意味があると思うのですけれども、①とかを讀んでいくと、何々することが必要ですという風な感じで、今までが悪くてこれからを変えていくというよりも、これから求められることみたいな感じのほうがずっと心に入ってくるかなと。改善という言葉があまりこの指針にふさわしくないような印象なので、これから求められることという風にすると、次の意識を高めていくことが必要ですということとつながりが良いかなと感じました。同じく(3)の①のアの所なのですけれども、なんでも市でやれば良いという気持ちではなくという文章が少し引っ掛かりまして、①の所に既に市民の意識を高めていくことが必要ですと書いてあるので、これからは、市でできること、市民ができることを皆で理解していきましようとか、それでも文章として、私は何でも市がやれば良いというのでは駄目だぞとむしろ言われたほうが気持ちいいタイプですけれども、人によっては何目線という風に感じてしまう人もいるかなというところを少し思いました。あとはもう本当に良いと思うのですけれども、言葉としてどうなのかなと思ったのが11ページの(4)の①の所、風どおしのいいは、ここが何か少し風どおしかな、風とおしかなと思いつながら読んだのですけれども、それでどうかなと思ったところです。以上になります。

(佐々木会長)

毎回、具体的にご指摘いただきまして大変助かりまして、次の村上さんが困るところですけれども、今お話いただいたことは、非常に重要なのですね、この住みたくなるまち日本一とプラスアルファ住み続けたくなるまちはすごく重要で、今も移住・定住とかというのは施策にありますけれども、やはり大事なものは、今いる子どもたちですね。新しい富谷に魅力を感じて入ってくる人もいるのですけれども、富谷に住んでいる人達が、富谷に住み続けるというのはすごくやはり大事なことでないかなと思います。富谷の子どもたちは自分たちが富谷っ子という誇りを持っていますので、先ほど住みたくなるまち日本一が刷り込まれていると言いましたけれど、この住み続けたくなるまち日本一を刷り込んでいくようにする必要がありますなど本当に私自身聞いていて思いました。あと具体的に、文字のことがありましたので、それは反映していきたいと思えますし、実は私もそこはそう思っています、何で最初に改善が必要な課題はあくまで仮ですよと言ったのかはまさにご意見いただきたいなと思っていたところでした。あと、何でも市でやれば良いという気持ちではなく、これは行政の皆さんの本音だと思いますけれど、ここはカットしてですね。あとは11ページの風とおしのいいの所ですね。あとここの(4)のタイトルも、そういう意味では増田さんに考えてもらって、少し合わせていったほうが良いのではないかなと思います。それでは村上さんお願いします。

(村上委員)

NPO法人SCRの村上と申します。文字的に気になったことは増田さんと同じだったので省かせていただきます。私もNPOを立ち上げるきっかけが住み続けたいまちだなと思ったので、それを一人ではできないことを皆の力で一緒にやっていく人達と共に地元密着型のNPOとして何かやっていきたいなと。続けて9年になるのですが、結果まちづくりの一環に繋がってきているなど最近感じています。最初は自然を守り活かす活動をしていたのですが、そこから、今市民協働という風に掲げられているはちみつプロジェクトというところで、蜜蜂が自然に優しい生き物だということで参加させてもらうようになって、4年になるのですが、最初から市民協働でやりましょうとかという話ではなくて、まず自分たちのNPOでやってみて、やはりこれはNPOだけではなく、もしこの事業をするのであれば、まち全体でというか市全体に知ってもらいたいと思ったので、行政のほうから市民の方を募集していただいて、集まると思わなかったのですけれども、開けてみたらとても興味を持って集まっていたので、それが4年間同じ人ではなくて、毎年増えてきているというのが、この富谷市は新しいことにチャレンジしていったり、同じ事の繰り返しではなく、進化し続けるまちなのではないかなと希望を持っています。なのでこの市民協働、協働という字がいつの日からこの字に変わっていたのか私も3年位前に気付いて、いつからこういう風になったのだろうと興味を持っていて、その後SDGsというものを、今回表紙でパートナーシップで目標を達成しようの17番だけを掲げるというのが、もっと色々あるのではないかなと感じました。ここに掲げるのであれば全体でも良いし、そこが気になりました。

あとは増田さんが全部言うてくださったところで、改善ではなくて前向きな、これからずっと続けていく協働のまちづくりということで、これからずっと求められていくことに変えたほうが私も良いと思いました。あとは、これを作ったら何年これを見るというか、使うのだろうという疑問が少しあって、そこはやはりその時代

時代に合わせて、時代とともに変化、進化していくのが富谷らしいなと思ったので、写真がどの程度入って何年使われるのかなというのが少しだけ気になりました。

(佐々木会長)

写真が入って何年というのは。

(村上委員)

写真が入って、これが一般市民に配れるものなのかというのが少しだけ分からなくて。

(佐々木会長)

その辺は私も分からないのですけれど、これは基本的に皆さんがデザインする形ですよね。それでホームページにあげる形ですか。

(市民協働課長)

はい、そうです。

(佐々木会長)

配布というイメージはないのですよね。

(市民協働課長)

今のところはないです。今の時点ではホームページに掲載したりとか、色々な窓口に備え付けるというような形を考えていました。

(佐々木会長)

今の私のイメージではホームページに載せておくということであったのだと思うのですが、市民向けに配布する場合は、たぶんこれだけ配布しても見ないと思いますので、やはりこれプラスアルファ何か色々な人の顔が出るような事例集とかを付けて、分かりやすくダイジェスト版で付けるということが、貰った市民の皆さんも嬉しいのではないかなと思いましたし、今も色々な示唆に富んだ話をいただきまして、一つ重要だなと思ったのが、やってみたいの気持ちを大事にするというのがSCRがそうだったという話がありますけれど、そこの活動の最初の所を、先ほど北野澤委員からもフォローアップの話がありましたけれど、最初の部分を、これがやはり大事なのですよね。行政のフォローもそこを手厚くというわけではないのですが、行政が関わらなくても始まるプロジェクトというのはいっぱいあるのですが、その始めの部分も10ページの表の所を少し工夫していく必要があるのかなと思いました。今いただいたものは全部書いていますので皆さんの抜け落ちなく、出来る限り反映していくということを進めていきたいと思います。あと写真の所で、はちみつプロジェクトもそうですけれど、村上さん達のSCRは女性だけの林業団体ということで、私が知っている限りでは女性だけの林業団体は無いのではないかなと思いますし、私のゼミ生も一回参加させてもらったのですが、お母さん達が木を切っていたということでびっくりして帰ってきたというですね。学生が驚いた、先ほど富谷インパクトという用語もありましたけれど、驚きなのかなと思いますので、はちみつプロジェクトは載るとしても、林業の皆さんもすごく協

働で環境課題解決というもので、個人的には非常に重要な取組なのではないかなと思っております。では佐藤(政)さんお願いします。

(佐藤(政)委員)

今富谷は47町内会あるのですけれども、旧16町内会、そこで町内会長を4年、今年で5年目になりますけれども、やらせていただいております。私は農業一本でずっとやってきまして、田んぼが約20町歩位ございまして、その部分で水稻、それから協同組合で大豆、私の部分はさくらんぼをやって、ブルーベリーをやって、それから葡萄をやってということ、作業はシルバー人材センターさんのほうにお願いして、やっていただいている状況です。そんな形でやってはいるのですけれども、先ほどから皆さん協働、協働という形で、私の協働は、協は同じなのですけれども、協同組合の協同というのが頭の中にあって、前回懇話会の中でも色々聞かせていただいて、色々なお話もさせていただいたのですけれども、なかなかこの協働というのがピンとこないというか、農家は元々協同意識という部分が強くて、昔、皆さん分かるかどうか分からないですが、ゆいっこということで、作業を皆で一緒にやるという形で、ずっとそれで地域を守って、農業をやってきたというのが今までなのですけれども、ただ、現在はやはり農業が衰退してございまして、なかなか農業をやるという方々がいなくなったという部分も含めて、やはり農家の方々が農業をやらないでほとんどお勤めに出られているということで、大体平均して各集落農家をやっている部分については2割、20%いるかいないかということございまして、なかなか厳しい状況になってきて、その中で、やはりその地域を守る、農家を守るという部分の形がどんどん崩れていって、皆で一緒にやろうと言っても地域がなかなか集まってこないというのが今の実情かなという風に思われます。そういった中において、私も色々な形でやってきまして、やはりこの人材を育てる、各町内会も同じなのですけれども、本当に会長なり、その周りで支えている方々が一生懸命やっていると、やはりその地域というのは盛り上がり、色々な形になっていくのですけれども、それが無くなると、ぱたっと、もう町内会もやめたとかという形になっていきます。だから農家も同じでそういった形になるので、やはり人を育てていくと、子どももずっと同じですけれども、私たちが育てるという部分についてもそうなのですけれども、やはり一緒にやりながら育てていって、その方々にそういう思いを持っていただいて、それを繋いでいただく。そういう繰り返しという部分が、今協働と言われている形での、人の繋がりになってくるのかなと思いますので、やはりそれがどうやっていかなければならないのかということをもっともっと話し合いをしながら、皆に分かっていただきながら、そういった形でやっていければ、もう少し、先ほど住みたくなるまちもそうなのですけれども、今の富谷というのはやはり農業なり色々な形態があって、そういった人達が集まってやっている市なのかなと思いますので、その方々をどう繋ぎ合わせられるかという部分を含めてもっともっと人材を育てていかなければならないのかなと思います。

(佐々木会長)

ありがとうございます。そういう意味では協働を進めていく中で一緒にやりながら人材を育てるということでしたけれど、そこでたぶん佐藤(政)さんが知っている当たり前の話でも知らない事が多くあると思います。そういった地域の歴史であるとか、時に技術や技であるとかですね、そういうものも引き継ぎながら人材育成、

あるいはより良いまちに繋げていくという風なことを少しどこかに強く入れていくと。確かにおっしゃるとおり協同体という言葉がありますが、元々この協同体というのは集落とか、農作業の維持ということが非常に原点にある言葉ですので、富谷イコール農業と言うと段々イメージが都市化してきたのも確かにそうなのですが、その原点の部分も、反映あるいはその後事例集になるかもしれませんが、何かメモしておいて、そこが抜けないようにしたいと思います。最後に平岡委員にお願いしたいと思います。

(平岡委員)

富谷市の明石台第二町内会の平岡といいます。お世話様です。私からも皆さんと丸っ切り一緒の所ですけど、私は町内会長という立場があるので、皆さん社協であったり、シルバーさんであったり、ボランティアセンターさんやPTAであったり、色々な団体の話を聞いて嬉しいのですが、まずはやはり町内会、47もあるので、この町内会をまとめると言ったら申し訳ないのですが、きちんとした町内会活動をしていただくと。発信源はやはり町内会だと思っているので、今すぐ町内会を脱会したりとか聞きますけれども、やはり何をすることもまず町内会だということが私の考えなので、私だけ考えても仕方がないので、ただやはり町内会あっての社協に薦めたり、シルバーさんを紹介したり、あと子どもたちはうちの地区は、10月に大掃除ありますね、クリーン作戦。あれにも中学生が出てくれるので、学校と町内会が繋がっている気がします。私も本当は町内会にあまり関心が無かったのです。だけど自分がこういう立場になった時に、子どもの時に自分が親の姿を見て育ったので、これが町内会なのだなというのが自然に入り込めたというのが本当のところなのですね。それで、今大人だけではなくて子どもたちとか色々な事を色々な方たちが入り込むというのは大人の姿をやはり見ているので、一緒に清掃も子どもさんを連れて来たりとか、夫婦で来たり、若いお父さんお母さん、こういうところから町内会というものを理解してもらえと思うのです。町内会が高齢者のものではなくて、若い子どもから高齢の方までなのですが、先ほどもソフトボールの話が出ましたが、全部で同じ事をやるのは無理なので、好きなこと、諸団体と言って、団体の自分たちのしたいことを全部助成して五つ六つ位作っているのです。そうしますと、ソフトボールチームは何十人、将棋麻雀チームは何十人という感じであつという間に百人は超えるのです。そうやってそういう人達を掴んでおいて、そこから何かがあった時は町内会の諸団体として協力してもらおうという形をとっているのです。町内会もその人達を大事にしながら、団体も町内会に協力しながら持ちつ持たれつでやっているのです。やはり町内会は原点なのかなと私はいつも思います。それでやはり一番は、先ほど課長さんのほうからお話が出ましたが、市民の意識を高めていくことが必要というのは、これは市のほうも5万人を超えていますので、これは別に市の職員さんの気持ちではなくて、私が前にも話したと思うのですが、やはり市でできるものは限られていますので、その中で町内会でできるもの、市民でできるものというのはここ一番大きいと思うのです。やはりできることとできないことははっきりしてもらったほうが、やり方がそれなりに考えられるので、そういう所ははっきりしたほうがやりやすいのかなと思います。

先ほどから協働についてということで、私も少し真面目な話をするのにピヨはどうかなと思ったのです。たぶん優しい感じでそういう風に入れてくれたのかなとい

う気持ちもありましたし、このまま子ども向けの資料にするにはいいのかなと思いました。私もとりとめのない話ですけど、まず町内会というのが一番の発信源に考えていかなければいけないのかなと思っています。それで市のほうもそうですけれども、市長の思いだけで突き進むのではなくて、部課長を始め、またその職員さん、下まで浸透させて、町内会と組織は違うのですけれども、町内会と一緒にのですよね。町内会長だけが目立つように自分の好きなことをやるのではなくて、それを会員の皆さんに伝えていって、皆でまとまって市と町内会と色々な団体が皆で繋がっていると思うので、そういう一つ一つの団体がきちんとしてくれば、市のほうも市民と一緒にできるのかなといつも思っています。なかなか難しいのですけれど、それが私の理想として今やっています。

(佐々木会長)

ありがとうございます。皆さんにご意見をいただきましたけれど、最後に平岡委員からありましたけれど、町内の重要性というのもきちんと、やはり何かという時には町内会だというのは皆の認識だと思うのですね。ただ一方で多くの課題を抱えている。私も色々な所に講演に行くのですけれど、町内の協働と言うのですけれど、一つはまちの中の協働、一つは役所の庁舎の中の協働、今おっしゃいましたけれどね。その二つがあってさらに町外との結びつきというのがあるとすごくアクティブになってくるのだと思うのですね。そういう意味では役所の中の協働というのもこれはおっしゃる通りで、これは我が大学も含めまして難しいところがあるのですけれども、その辺のところを、風通しの良いということもそういうことを言いたいのだと思いますけれど、そういうものが、難しいのですけれども、平岡委員がおっしゃる通り、必要な時代になってきますので、まちの中の協働だけではなくて、役所の中の協働も含めてですね、話し合い、対話が尊重されるような、もちろんそれすべては解決しないのですけれども、そういうような方向性ですね、特に町内会というものも含めて、今回の事例の地域コミュニティ団体の一番上とはそういう意味ではまさに町内会と書かれているわけですけど、その辺をもう一度チェックをしていきたいと思います。それでは時間のほうも時間通りになりまして、皆さんから意見をいただきました。最後に、一巡して、この一言だけは言いたいという方はいらっしゃいますか。では寝られなくならないようにここで言っていたきたいと思います。

(増田委員)

先ほど6ページの富谷インパクトを初め見た時にどういう意味かなと思って、会長さんのご説明を受けて、ああそういう意味かと、すごくインパクトがあるなと思って、注釈を入れたら良いかなというお話があって、注釈を入れるのはもしかしたら野暮なことかもしれないのだけれど、先ほどのお話を伺って、すごく良いなと思ったので、入れていただいても良いなと思いました。それを言い忘れしました。

(佐々木会長)

ありがとうございます。そういう意味ではこれの図の解説も、少しやっていきたいと思います。それでは、皆さんにご意見をしっかりと行っていただきましてですね、やはりこういう会は皆さん自身に参加していただくということが重要ですので、今日も皆さん方と、色々な制限がありますが、しっかり議論ができたのではないかと

と思います。では審議のほうはすべて終了とさせていただきますが、皆様に最後お諮りさせていただきたいのですが、本日委員の皆様から頂戴した意見を十分に考慮し、指針案の作成を進めてよろしいでしょうか。

※「異議なし」の声あり

全員異議なしということで、事務局におかれては、本日委員の皆様から頂戴した意見を十分に考慮し、指針案をとりまとめていただくようお願い申し上げ、進行を事務局にお返しいたします。委員の皆様、ご協力大変ありがとうございました。と私が言うべきところなのですが、最後に、とりあえず今日でこれは終わりではなくて、今日家に帰ってやはりここが言いたいなとかありましたら、ぜひ部長、課長を始め、皆さんがいらっしゃいますので、遠慮なく言ってもらえればと思います。それでは進行のほうにご協力いただきましてありがとうございました。それでは私の役目は以上とさせていただきます、事務局のほうに戻りたいと思います。よろしくお願ひします。

7 その他

(司会)

佐々木会長、委員の皆様、大変ありがとうございました。その他といたしまして、事務局から連絡がございます。

(事務局)

皆様ありがとうございました。それではわくわくミーティングの日程についてご連絡させていただきたいと思います。資料5のA4の紙一枚のものをご覧ください。8月に3回の開催を予定しているところなのですが、まず日程といたしまして、第1回目が8月28日金曜日の10時から11時30分、第2回目が8月28日金曜日、同じ日の13時30分から15時。第3回目が8月29日土曜日の10時から11時30分としておりまして、テーマはまちづくりの基本となるルールについてということで、会場を富谷市役所の3階会議室で予定しております。こちらは3回とも同じ内容にはなりますが、参加者の方は異なります。8月の広報で募集する予定でございますので、皆様にも周りの方にお声掛けいただきまして、たくさんの方にご参加いただくと幸いです。こちらについては後日改めてご案内をさせていただきますので、可能な範囲でご出席いただければと思います。お願いいたします。

(佐々木会長)

わくわくミーティングは年齢制限があったのか。前に中学生も来ましたがけれど。

(事務局)

年齢制限はありません。自分の意見がお話できれば大丈夫ということで募集する予定でございます。

8 閉会 (司会)

それでは、閉会の挨拶を平岡職務代理者からいただきたいと思います。平岡職務代理者、お願いします。

(平岡職務代理者)

本日は様々な立場の委員さんからご意見をたくさんいただきありがとうございました。これからもまだ先に続きますけれども、佐々木会長さんを先頭に私たちもこのまちづくり推進指針に向かって、皆さんでこれからも色々なことを話し合っていきたいと思います。皆さんどうぞよろしく願いいたします。本日はありがとうございました。

以上